

京都春期特別集会 祈禱会

汝われと共にパラダイス

——ルカ伝第23章39～49節——

1974年5月5日

小池辰雄

祈り 人類を二分するもの キリストと一緒にパラダイスを歩く キリストの中をいよいよ進んでいく 祈り

【ルカ23・39～49】

39 十字架に懸けられたる悪人の一人、イエスを譏りて言う『なんじはキリストならずや、己と我らとを救え』40 他の者これに答え禁めて言う『なんじ同じく罪に定められながら、神を畏れぬか。41 我らは為しし事の報を受くるなれば当然なり。然れど此の人は何の不善をも為さざりき』42 また言う『イエスよ、御国に入り給うとき、我を憶えたまえ』43 イエス言い給う『われ誠に汝に告ぐ、今日なんじは我と偕にパラダイスに在るべし』

44 昼の十二時ごろ、日、光をうしない、地のうへ遍く暗くなりて、三時に及び、45 聖所の幕、真中より裂けたり。46 イエス大声に呼わりて言いたもう『父よ、わが霊を御手にゆだね』斯く言いて息絶えたもう。47 百卒長この有りし事を見て、神を崇めて言う『実にこの人は義人なりき』48 これを見んとて集まりたる群衆も、ありし事どもを見てみな胸を打ちつつ帰れり。49 凡てイエスの相識の者およびガリラヤより従い来れる女たちも遙かに立ちて此等のことを見たり。

● 祈り

祈ります。十字架の主さま、この三日間のあなたの自在なる御霊の、御言のおん導きを感じ謝いたします。僕は何者でもありません。ただ、あなたを見上げ、あなたにつかまれ、ただあなたの「言え」と仰ることを何恐れなく申しました。福音はそのような世界です。感謝いたします。僕はダメなやつですが、しかし、あなたはダメなやつを使い給う。感謝いたします。今日はこの最後の祈禱会をかくのごとくおん導きくださって感謝いたします。

ここにあるところの兄弟姉妹たちはみなあなたによりすがっている者です。どうぞ、あなたがいかに御名のゆえに私たちを捉えてくださるか、み栄えのために私たちに本当に用いんとしてくださるか、本当に感謝いたします。今、一切を聖手に委ね奉ります。御名に



より捧げ奉ります。アーメン

● 人類を二分するもの

福音書の絶頂と言いますか、また深淵と言いますか、そこは何と言つても、キリストの十字架のところですか。ここに二人の人がキリストの右左に掲げられてありましたが、これは正に人類を二つに割るところの型です。先に罵つた者が人類の大部分で、現在の20世紀の人類はこちらの方に属する者が大部分であろうと思います。何となれば、神を畏れず、キリストを信ぜず。また、信仰者といえども、己が立っているような信仰ではダメです。そのようなのが先に口走つたところの奢れる魂です。人類を二つに分かつものは、

「砕けの魂か、奢りの魂か」

人類を二分するものはそれだと私は思います。

片一方の盗賊は生涯、いろいろ悪いことをしました。しかしながら、最後の瞬間に彼の魂は砕けました。この砕けの魂をキリストはハタと受けとられる。イエスは、その人の今までの過去がどうであるかである、それはひとつも問わない。現在を問ひ給う。その現在において本当にキリストに自分を投げ出した者——この自分を投げ出した者は、砕けの魂といいますが、その砕けの破れの全存在をキリストに投げかける者——に対してはイエスは、

「我、誠にお前に言うが、今日、お前は私と一緒にパラダイスだ」

と仰る。キリストと一緒に最初にパラダイスに入ったのは、この砕けの魂の一方の盗賊でありました。これは立派な人でも何でもなかった。

● キリストと一緒にパラダイスを歩く

パウロは自分の立派さも塵芥として、

「我は罪びとの首」

と言いました。しかしながら、「罪びとの首」になつてくださったのはキリスト自身です。キリスト自身が私たちの罪を負つて、罪びとの首となつて十字架に懸かった。主イエス・キリストのこのどん底の恩寵の前に、私たちは何をものが言えるか。私たちはもはや砕けということすらも言えない。ただその前に平伏すばかりです。そのときにキリストは、

「お前は今日、私と一緒にパラダイスだ」

と仰つてくださる。私たちは毎日、キリストと一緒にパラダイスを歩く。地上にありながら毎日、キリストと一緒にパラダイスを歩く者は、己を何者ともせず、己を吐き棄てていくような、そういう信ならざる信の世界です。

今のキリスト教会が、何のかんものとなぜ人間の側を問題にするか。問題にするただひとつのものはイエス・キリストだけで、自分の側は何者でもない。ただ、



「主さまー」

と、本当に全存在をもって「主さまー」と言うことが、これが碎けなんです。それを言うときには、必ず主は無条件にとり入れてくださって、

「お前と一緒にパラダイスではないか」

と言つてくださる。

「主さまー」

と言えば、直ちにキリストの懐の中です。倒れば即ちキリストの懐の中です。どこで倒れてもいい。どんなに疲れても大丈夫、それはキリストの中です。私たちは決して自分の側をどうこう思う必要がない。絶対恩寵とは実にそのようなことです。このイエス・キリストは、

「よしっー」

と言つて、その次の瞬間には本当に復活の生命が、キリストの霊が来て、私たちは立ち上がります。私はこの福音のほかに知りません。

●キリストの中をいよいよ進んでいく

どうぞ、そのようにして——教会も無教会もへつたくれもない——ただイエス・キリストの中に進んで行く。パウロが自分を罪びとの首とし塵芥ちりあくたとして、主イエス・キリスト一点張りで進んでいきました。この質を私たちは行きます。

今の文明人はあまりに頭で動きすぎる。どうぞ、皆さん、もつと本当のばかものになつてください。そうしたら、本当の天的な賢は、天の愚は、地上の賢よりも素晴らしいのです。

「今日、私はお前と一緒にパラダイスを行くぞ」

と。私たちの現実にはキリストと共にこの地上をパラダイスにしなから、自分の歩くところ、即ちその足跡は即ちパラダイスの足跡である。そのようなことになって進んで参ります。私たちはこの驚くべきパラダイスに導かれて、十字架の片一方の盗賊と一緒に、イエス・キリストと共に毎日毎日天国として、即ち我々は天国人として地上を進んで行きます。終末的現実を、

「神の国は汝らのうちにあり」

とは実に、

「汝、我らのうちにあり」

と言つて、主イエス・キリストと共にキリストの中をいよいよ進んでいく。こんなうれしいことはない…(異言)…もう言葉になりません。

どうぞ、皆さん、本当に私たちはこの熾さかなる現実を進んで参りましょう。何も懼おそれることはない。何ものにもこだわることはない。本当に倒れてごらん。そのときこそ本当に



力がくるから。そして、もうやり切れませんということになる。

「どんなことがあつても絶対に行き詰まらない」

とパウロが言ったではないですか。

「^せ為んかた尽くれども^{のぞみ}希望を失わず、倒されるれども滅びず。主イエス・キリストと共に十字架されているから、キリストと共に甦らされてある。この御霊の生命を何をもつて代えることができるか」

本当に私は一生をかけて、このことを叫んで進んで行きます。皆さんはこのキリストの^{からだ}体としてのエクレシア、活ける体としてのエクレシアです。本当に互いに担い合いながら、担ぎ合いながら――

「よし、疲れたか」

と言って担ぎ上げていくのはキリストの力です――お互いにそのようにして祈り合いながら進んでいく。また本当にキリストの中に倒れてごらん。必ず力が来るから。いいね。

「主さまー」

というのは、

「南無妙法蓮華経」

「南無阿弥陀仏」

以上の力を持っている。どうぞ、そのようにして進んで参りましょう。あと、祈りましょう。

● 祈り

主さま、この一方の盗賊はあなたを^{そし}謗りました。それが今の20世紀の大方の姿、人類の滅びへの姿です。しかしながら、もう片一方の盗賊はあなたの前に本当に砕けました。それは栄えの姿です。

「天国か、地獄か」

がこの二人の盗賊においてはつきりと分かれていました。実に私たちはこの天国人とせられ、

「今日、汝われと共にパラダイスなり」

と、毎日毎日、あなたと一緒にパラダイスを歩くこの現実を私たちはいただきながら行きます。人々をこのパラダイスの中に入れて、友だちをつくりながら進んで参ります。くだらない相対的な判断を一切乗り越えて、私たちは進んで参ります…（異言）…。

真にキリストの証し人として、福音の証し人として、いよいよ進ましめ給わんことを願ひ奉る。感謝いたします。

いよいよ私たちはあなたの本当の^{よなな}幼子として、またあなたの本当の勇者として進んで参ります。ああ、主イエス・キリストはわが一切なるかな、我らの一切なるかな。

「我は葡萄の樹、汝らはわが枝なり」



と。実に聖霊の火は私たちの中に灯る。この聖霊の火を消すものは何ものもない。

「この火燃えたらんには何をか要せん」

と。

主イエス・キリスト、ハレルヤ、アーメン！

キリストの御名によりてアーメン！

……

はい、ちよつとみんな静かにして。少し私は言葉を加えます。今、頑くかな傲慢と砕けとの対立を十字架の両側に見ました。しかし、本当の砕けそのものはキリストの十字架です。このキリストの十字架が、砕けきれない私たちのために砕けてくださった。

「私を受けよ。わが砕けを受けよ」

と。そこに私たちの本当の砕けがあるんです。そのときに私たちはぶつ、飛んでいきます。そこに、

「わが生命を受けよ」

と。これは聖霊です。必ず来ます。キリストによつてぶつ、飛ばされたところに必ず聖霊が来ます。その聖霊の嵐にあつて、本当に一点曇りなきところの美空のごとくに、この聖霊の体験はそのようなところに私たちを導くのです。もう何もない。本当に主イエス・キリストの御霊の光が満ちるところです。主さま、感謝いたします。そのようにして、私たちは相変わらずダメであつても、そんなものは問題でない。

どうぞ、主イエス・キリストが一切をなし給うところ、それを本当に受けてください。本当に何と易行道といえますか、これほどの易行道はない。親鸞の信仰のもつと奥の世界をこの福音は与えてくれます。人間的なものは一切もはや、そこが5であろうと10であろうと、主イエス・キリストの無限大のところには問題ありません。そんなことを問題にしないで、自分の側を一切問題にしないで、

「主イエス・キリストは一切を与え給う」

と。主を信ずるとは100%に主イエス・キリストを受けとることの他の何ものでもない。そのことを受けとつて進んで参ります。かくして、必ず成ります。このキリストのご本願は必ず成ります。

このことは、相対的現実の奥の本当の現実を直ちに受けとつて進んでいく。それが本当の御利益にあらざるところの信の世界です。自由自在にキリストはなし給う。この喜ばしき音信おとずれにおいて、男も女も老いたるも若きも、真の力ある存在として、キリストの力をいただいで、キリストの愛の力をいただいで行きます。神さま、本当に溢れざるを得ません。

「永遠の生命の水が汝らのうちに泉の如くに湧き出する」

とはこの聖霊の愛の世界です。感謝いたします。私たちはキリストの本当の活けるエクレスシアであることを証しながら進んで行きたたく存じております。終わります。

